

富士川の河川維持流量の決定に関する要望、署名活動に至る経緯

はじめに

私たちは、富士川流域でラフティングを主とした観光業に携わっています。長年川で仕事をしていく中で、富士川は他の河川に比べ、極端に水が少ないことに疑問を持つようになりました。

過去の富士川

かつて日本三大急流と呼ばれた富士川は、その豊富な水量を生かして舟運が栄え、人の移動や米や塩の運搬で、1日数百艘もの船が浮かんでいました。その水量は、山梨の躰沢から、静岡の富士まで半日で下れる程だったそうです。近年までは、尺鮎が釣れる川として釣り人の人気も集めていました。しかし、水量が減った現在、同じコースを下ると、2日を要してしまいます。

現在の状況

日照りが続くと少ない流量の為に水温が上がり、水が動かないため藻が腐り悪臭を放ちます。魚影を確認することもほとんどなくなり富士川の河川環境が急速に悪化の一途を辿っていくことに危機感を感じています。川魚を主食とするヤマセミも、富士川沿いから姿を消しました。また、富士川河口の海岸線は、流量が少なく土砂の移動が減ったことにより、約50年の間で50~350mも浸食しました。

なぜこんなにも富士川に水が少ないのか？

戦前の1943年当時、戦争に備えアルミニウムの精錬の為に使う電力を確保する必要性がありました。莫大な電力確保のために、毎秒75トンの取水が一民間企業に許可されていました。当時定めた取水量はその後現在まで、時代の流れと社会の変化に動かされることなく続いています。富士川の水の9割以上が山の中のトンネルを流れ最後は直接海へと放水されてしまうのです。

市民生活への影響

現在国内ではアルミの精錬は行われていません。作られた電力は地域住民への説明もないままFITとして中部電力へと売電されています。FIT認定には地域への説明が必要ですが、実際には何一つ説明のないまま認証されており、皆さんの毎月の電気料金にも再生エネルギー賦課金として上乗せされています。富士川の水の利用は、知らず知らずのうちに毎日の生活にも影響を与えているのです。

問題点

川を地球の血管に例えるならば、血液である水が不足することで、土砂やミネラルが海まで循環しません。その影響により、富士川河口である駿河湾では、桜えびの不漁が何年も続いています。水の利用状況の開示がされていない為に、企業の不正取水も起きていました。

そんな中維持流量を設定するための検討会が設置されることになりました。しかしながら会議への流域住民は未介入、内容も非公開とのことでした。一民間企業の取水がこれだけ自然環境に影響を与えているのであれば、本来ならば、生態系の調査結果を踏まえた上で、観光業、漁業関係者、農業、環境団体など、流域住民の意見を反映して河川維持流量が決定されなければならないはずです。

現在富士川の中下流域を流れる水量は、全国の他の一級河川の河川維持流量の平均と比べると5分の1以下です。全国一級河川平均値の計算式から求めると、毎秒25トンは流れていてもいいはずです。

大事なことを決める過程は市民に開示し、また意見できる環境が必要です。

また、現状では富士川の水利用状況を確認する方法がありません。

より良い富士川の河川環境を模索し続けることが、より良い流域の未来を作る礎になります。

国土交通大臣 齊藤鉄夫 様
関東地方整備局長 廣瀬昌由 様
甲府河川国道事務所長 留守洋平 様

富士川の河川維持流量に関する要望と賛同者の署名

富士川流域のラフティング事業者組合（富士川船頭組合）は、富士川の河川環境を改善するために、令和4年度中に設定する河川維持流量に関して以下の事項を要求し、賛同者の署名とともに提出する。

- 1・ 今回の河川維持流量は、十島堰堤下流の流量を毎秒25トン以上に設定する。
- 2・ 河川維持流量設定のプロセスは開示する。
- 3・ 設定した河川維持流量が適切に川に流れているかを監視できる仕組みを作る。
- 4・ 今後も設定した河川維持流量が適切だったか議論する協議会を設置する。

署名簿

姓名	住所
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒

※「同上」、「〃」などは無効となります。

※ご記入いただいた個人情報は、署名提出目的以外には使用しません。

署名提出者
住所 静岡県富士宮市内房 2193-8
富士川船頭組合
富士川 Free to Flow 実行委員会
代表者 佐野文洋
問い合わせ先 0556-45-2225（本流堂）